



「在宅で人生の最終章をその人らしく生きるを支えるための支援」をテーマとする市民講座の学習効果の検討

キーワード

人生の最終章, 市民講座

研究内容

人生の最終章を住み慣れた自宅で暮らしたいと希望する人は多いです。自宅で可能な限り安全な暮らしを実現するには、介護の度合いに関わらず、本人や家族が医療や介護、生活におけるフォーマル・インフォーマルな支援の情報・技術・知識を得ることが必要です。本研究では、東京家政大学令和7年度プロジェクト研究助成費を得て一般住民を対象に公開講座を開催し、受講者に「可能な限り自宅で安全に暮らす」を実現するための考え方を理解していただく取り組みをしています。講座前後にアンケートをさせて頂き、社会資源活用や在宅医療・介護についての学習効果を検証しています。講演者（藤井かし子・林純子・渡辺一夫）は在宅で親の在宅生活を支えた実践者であり、日本在宅ケア学会において2年連続して交流集会を開催しています。

市民講座では、出張歯科四つ木の歯科医師池川裕子氏および一般社団法人日本フットケア・フスフレーグスクール理事長山道いずみ氏に協力いただき、一般市民に向けた口腔ケアとフットケアの方法を紹介する動画を視聴する時間を設けています。



市民講座では参加者の方が熱心に講義を聞いていました。

関係論文、特許・著作物等の知財情報、連携の実績

- ・その人らしく生きるを支える在宅看護の事例検討会―多職種・非多職種連携と家族の支援を発揮する、第29回日本在宅ケア学会学術集会交流集会、2024年8月
- ・要介護状態の方の在宅療養生活をささえるための費用対効果についての探求 第30回日本在宅ケア学会学術集会交流集会、2025年9月
- ・脳血管疾患による歩行困難と手の拘縮を抱える在宅要介護認定者のフットケアと手指ケア―症例報告より、日本褥瘡学会・在宅ケア推進協会総会・学術総会、2024年7月6日

社会連携・産学連携の可能性

今後、どんな状況になっても、本人の意志決定を尊重し、できる限り在宅での生活を維持できるようなモデルを作成し、行政及び産業界に力を要請するための基礎資料を作成します。